

第2回道の駅「来夢とごうち」再整備基本計画策定検討委員会

と き：令和3年8月10日（火）15：30～17：00

ところ：安芸太田町役場 東館 大集会室

1. 開会

事務局 渡海

産業観光課の渡海が進行を務める。実効性の高い計画を進めるため、有識者及び関係団体から助言をいただく目的でお集まりいただいた。

2. 町長あいさつ

橋本町長

緊急事態宣言がある中、皆様にお声がけをしてお集まりいただくのが難しい状況である。道の駅の検討委員会も第1回開催の後、なかなか進められず8月の開催となってしまった。道の駅が産業・観光振興の起爆剤なるという思いで検討を進めていきたい。

篠原先生は緊急事態宣言のため、残念ながらリモートでの参加となった。いろいろとこれからの時代に合わせてやっていく必要がある。みなさんにもご理解いただきたい。

皆様の活発なご意見をお聞きしたい。

3. 事務局紹介

事務局 渡海

令和3年4月に町の組織変更があり、事務局が「企画課」から「産業観光課」に変わった。課長及び課員の自己紹介をする。

産業観光課 課長の菅田です。課長補佐の正木です。係長の渡海です。

協議事項の進行は篠原先生にお願いする。

4. 協議事項

委員長 篠原先生

東京では日々5,000人近い感染者が出てきており、安芸太田に持ち込むわけにはいかないため、町長と相談しWEBでの参加とさせていただいた。今日の暑さに負けないような熱い議論を行いたいと思う。

まず、菅田産業観光課長よりこれまでの検討内容とスケジュールを紹介いただく。

産業観光課 菅田課長

委員会資料資料 1、2 及びスケジュールの説明を行う。

今年度に入り町外意向アンケート調査を行った。安芸太田町以外の広島県、岡山など 5 県の方 500 人へ実施した。その結果を簡単に説明する。

食事を求めるお客さんが多い。若い方からは魅力的な商品が少ないという意見、三段峡やスキー場などの最終目的地までの立ち寄りが最も多い結果となった。利用時に困ったことは駐車場が少ない、食事、お土産が少ないという意見が多かったが、困ったことは特になかったといった意見もみられた。必要な機能では、農産物や食事のことがここでも出ていた。これらが本年度 WEB アンケートをした結果である。

関係職員などを集めプロジェクト会議を行い、道の駅の整備方針について検討を行った。

(委員会資料-2 P1 色分けした各整備方針のポイントを説明)

ピンク：来訪者にとってのおいしい・わくわくを届ける道の駅

紫：町民+来訪者が出会い・ふれあう道の駅

青：町民が集い誇りに思える そのためには町の観光・産業エンジンとなる道の駅

オレンジ：防災機能のあり安全な道の駅

これまでの第 3 ステージから新しい次のステージの道の駅ということでまとめた。

(委員会資料-2 P2 各項目の概要説明)

具体的なことは参考資料として配布しているが、取扱注意でお願いする。

昨年度、道の駅の整備に係る動向、来訪者ニーズとして WEB アンケート、町民意見交換会・事業者ニーズをまとめた。行政の考え方では観光・産業振興戦略について協議し産業のエンジンとなる考え方をまとめた。特に農業振興となるよう産直市に特化した意見が出された。また農業委員会からの意見も出された。

こういった意見から、道の駅の整備基本計画の将来像案として「みんなで応援したくなる成長し続ける道の駅」という題をつけた。そこに 5 つの方針を副題としてつけるイメージである。稼げて、美味しく、安全で、町民と事業者が出会うということである。

(委員会資料-2 P3 表の概要説明)

整備方針整備イメージを左に、課題とその解決方針の具体案を示した。

整備のイメージについては、地域の食を活かした加工場が必要という課題に対し、新たな商品開発、商品の集約が可能な場づくりを進めるという解決方針である。産直市にどうやって地域のものを集めていくかが課題となる。町民が集い誇りに思える方針の課題解決方法としては、日常利用可能な直売所、子育ての支援等が考えられる。

出合いふれあいでは、交通手段やおもてなしのための整理が課題であり、基盤整備をしっかりと行う。インバウンドだけでなく日本人も同じような整備が必要だと考えている。産直市には地域商社機能を活かし地域食材を集めていく。誰もが安心という方針では、防災拠点という課題に対応する機能や、駐車場も含めて考えていく。これらの5点を整備方針とし、整備イメージを整理した。

（資委員会資料－3 道の駅再整備基本計画策定スケジュールについての概要説明）

当初考えたものから、コロナの関係もあり若干遅れ気味である。観光産業戦略をどう基本計画に落とししていくか。プロジェクト会議や委員会を実施している。再整備基本計画では9月には実際現場に入り、ゾーニングや動線計画に着手したい。設計もあるため、令和6年度に施工という予定。

本日、資料の説明はしないが、観光の方針案をまとめている。単純に来客数だけでなく、どう交流するかにも重点をおいて検討している。

産業振興では、人口・耕作農地が減少するなか、農業生産額は上がっている。これは町が進めた農業政策、ひろしま活力生によるものだと分析している。案として営農指導員を新たに追加するなどしながら、農業にしっかりと取り組んでいくことを農業委員、推進委員とも話している。集荷する方法も大切であるなど、できることを議論している。

なお、農業委員会の方でとりまとめていただいた内容をお配りしているので農業委員会会長河本様より説明いただく。

（道の駅産直市再整備に向けての提案 資料の概要説明）

農業委員会会長 河本

産直市とは関係が深い。農業委員会の一つの活動に含まれる。道の駅とは深くかかわる必要があると認識している。

20名の委員で短時間であるが話し合った。その内容を大まかにとりまとめた。

産直市に出荷している農家は、家庭菜園の延長で、余ったらもったいないからということから、安い価格で提供しているが、専業農家にとっても適正価格での販売が重要である。

個々の農家が1年間の栽培計画を立てて多品目を生産し安定供給することが必要である。そのため高齢農家への営農指導が必要であるが現在は集落単位での営農指導体制となっている。有機農業は安定生産が難しく、農薬を使う必要がある。安全な農産物を作るにも指導がいる。

集荷は、自分で持ってくるのも難しい方もいることから軽トラを持つ人が集めるなど、集落単位などでのシステムが必要である。

スマホを持つ人には店頭の売れ行きはわかるが、何が足りないのか、売れ筋などは

わからない。四国の上勝町の葉っぱビジネスのように端末を使う事例もあり、今後のIT活用は必要である。

高齢化が進み、草刈りや剪定もできない。ボランティアというのも難しいが、人的支援は必要である。

加工品をつくるためのグループができて、施設がなければ製造許可はとれないので施設の設置と、安芸太田らしい品目が必要だ。

活力生など若い生産者は、小松菜・ほうれん草のみなので同じ時期の出荷となる。標高差を利用した生産体制も必要である。また出荷のルール、規格、値段設定などの再構築も必要である。

小規模農家が出荷に使う容器、ラベル、機械器具の補助も必要である。

遠慮がちな高齢農家の庭先を営農指導員が訪問し、出荷できる商品を見極めるなど、出荷指導・生産指導が必要である。

組織の明確化、誰が主体となって産直市をやっているのか、責任の所在を明確にした運営が必要。合わせて、適正な規模、販売量の直売市を作っていただきたい。

今後も、策定委員会の検討内容を受けて農業委員会でも検討を進めて行く。

(1) 道の駅の将来像及び整備方針(案)について

委員長 篠原先生

これまでの検討概要を共有いただいた。委員会資料-1はマーケティング資料である。赤枠で示され内容は、だいたい予想通りであった。資料-2、はじめは役所内での垣根を超えた議論をしていただいた。産業観光課のみの意見ではない、十分なお議論を頂いた。そして新しいステージへという案になっている。2枚目、具体的な体系ができてきている。3枚目、具体的なアクションが何かまで議論いただいた。

まずは資料-2、P2右 道の駅とごうち周辺施設整備計画 整備方針・整備イメージについてご議論いただきたい。

地域商社事業本部長 栗栖氏

今回初めて委員会に出席する。道の駅の指定管理をしており、お客様のニーズ、顔が見える。

道の駅は、食事・お土産・情報の3つが期待するモノである。そのため拠点性を高めるにはこの3点の整備が最低限である。地域の人が集まる、頼れる場所や地域の出会いなども道の駅の機能であり、それが理想である。

産直市 河本氏の代理 沖段氏

道の駅の再整備というなかで産直市が目玉であるとおっしゃっていただき大変心強く思う。

農業委員会からも問題を指摘されているように、今の状況では難しい。面積・位置的な課題がある。朝早くからお客さんが来ていただき賑わいがある。しかし商品を置く場所がない。置くとお客さんが危険になる。

産業のエンジンとなるということで重要な位置づけであると思っている。課題の解決方針案を感動して聞いていたので、ぜひ進めてほしい。

商工会 津田会長代理 事務局長佐々木氏

書いてあることは素晴らしい。これが実現できたら素晴らしい。ハード面はある程度できると思う。一番欠けているのはソフト面。どのように運営組織していき課題を解決できるのかが今まで欠けている。地域商社でソフト面の連絡会を立ち上げたと聞いた。ハードとソフトの両輪で進めていただきたい。点が線となりつながって機能し、魅力的になっていく。それが成長し、将来像の「みんなで応援したくなる道の駅」につながっていく。

商工会も会員が 300 人程度。様々な業種で展開がある。どのように関わりが持てるのか。ソフト面においては、うまく機能できるように、地域商社が核とならないといけない。それには地域商社の機能の充実が最大の課題。地域商社の人的な面、量ではなく質を高めることが必要。コンセプトをもって運営していかなければ、いくらいいハードがあっても機能しない。ソフト面は、より慎重に皆さんを交えて検討していただければと思う。多様な生産者もいる。まとまっていけるような組織づくりが重要だと思う。

委員長 篠原先生

大変重要なお指摘であった。あるべき姿、方向はきれいにまとめていただいた。どういうソフトがあればまわしていけるのか。e コマースの構築で何を売っていくのか。商工会など産業の部分とどうつながれるのか。ソフトとは民力をどれだけかつようできるかという提言だと解釈した。

比治山大学 山田先生

初めて参加する。篠原先生からのご質問の前に確認したいデータがある。資料-1 P5 Q5 来夢とごうちの 10 年前は「行ったことも聞いたこともない」というのと値が逆転している。調査方法として、平成 22 年の対象者と同じ対象者か？同じ対象者でなければ、安易に比較するべきではない。

資料を拝見すると、計画がとてもきれいで盛りだくさんで、全国 1000 以上の道の駅のエッセンスをすべて取り入れた計画のように見える。しかしこのことは逆に、安芸太田町の道の駅らしさが表現できていないことと同じだ。広島県内にも道の駅は 20 以上あるが、安芸太田町の道の駅の特色や売りは何なのかが明確に発信されていること

が大事。

私のイメージでは、安芸太田は観光資源が豊富の上、広島市街地からの交通の利便性が良い一方で、県内で最も人口が少なく高齢化率が高い。当計画には、観光・産業が前面にでてくるが、安芸太田町の道の駅には、住民の方々が足しげく利用できるような日常使いの良さが備わる必要があると思う。今日道の駅に寄ったら、数名の若いお客さんが外の店舗でお弁当を買っていて、施設内には1人しかいなかった。まずは道の駅が地域住民の生活の一部になってほしいと期待したい。資料-2の来訪者と住民の縁ができるのは良いとしても、表現がきれいすぎて具体性に欠けて住民がどのように道の駅を使うのかがイメージできない。全国の道の駅では、特に過疎地域では、国交省が勧める「小さな拠点」的な道の駅が多くある。。岡山県の道の駅「鯉が窪」では図書館や認定こども園、保健福祉センター、歯科や診療所、生涯学習センターを敷地内に併設し、住民が毎日のように訪れて帰るという「目的化」したシステムが出来ている。

また運営主体については、安芸太田町ではDMOが強みとなっているが、全国では、地域振興会などの住民組織が指定管理者になるなど何らかの形で道の駅運営に関わっている事例も多い。それにより地域住民が日常的に通える駅になっている。参考にしてほしい。

話がまとまらないが、言葉もきれい、量が多い魅力的なコンテンツ満載で、もう少しシンプルなもので、差別化された特色が明確化された計画を期待する。

委員長 篠原先生

私の心配している懸念点をすべて指摘いただいた。行政のトータル的な方針と住民交流を続けていくような、橋本町長の大きな構想と、地域商社の稼ぐ機能の部分が、全体の中で具体的にどうつながるのが大事だというお話だと思う。自治会の意見も大事という山田先生の意見を受けて、地域の方がどうかかわるかという点でご意見をいただきたい。

安芸太田町自治振興会 副会長 長尾氏

自治振興会は地域と密着しているのが強みである。身近な町内の取組として、花壇づくりや、体操などをして長生きを目指している。

山田先生が言われたように、絵にかいた餅で終わってしまうのは困るので、ランク付けをしながら一つ一つを深く突き詰めていきたい。アンケートや町民の意見を参考にしながらやっていきたい。自治会の取組と同じで、町内から県内と少しずつ広げていくのが早いと思う。自治会内で盛り上げていく取組、候補の中のランク付け、町民のアンケートなどランク付けをして、取り組んでいければいい。これまでの取組を参考に、皆さんの知恵を出し合ってやっていきたい。

上殿連合自治会 会長 佐々木氏

国道 191 号の両側に道の駅があり、入りにくい建物である。花屋さんがあり道の駅の建物が隠れている。反対側のチャレンジショップには四季を通してお客さんがいる。経営店主にアドバイスをいただきたい。チャレンジショップができるまでは道の駅には来る人がいなかった。駐車場に車もなかった。そういう人にアドバイスをもらい、商工会員 300 人とタイアップして進められればいい。

安芸太田町の特徴を活かした道の駅にできればいいと思う。まず動線、JA があり、ジュンテンドーの店舗があるが国道に背を向けた店舗となっている。また、産直市も国道から見えない位置にある。JR の廃線の土地も活用したい。セブンイレブンの裏手にある町道を平地にして、チャレンジショップを少し敷地内側に少し引けばよくなる。バスの待合所もどうにかしたい。

委員長 篠原先生

どのようなゾーニングとするかは、今後の議論でしましょう。菅田課長から中間のコメントいただきたい。

産業観光課 菅田課長

私自身、何もかもしたいといっておきながら、何もできなくていつもお叱りを受けている。本当にできるのかということでは、観光の面は地域商社があってもまちの観光行政と連携できておらず、同じ方向を向いていなかった。同じ方向を向くためには戦略をたてるのが近道でないかと思い、戦略を立てるという判断をして 4 月から取り組みを始めた。

産業戦略としては、地域では余るほど野菜を作っておられるが、道の駅には出荷していない状況である。農業未経験の地域商社の職員では専門的なアドバイスができないので、対策として営農指導員を導入したいと思っている。地域が農業で元気になれるなら、町がお金をかけてでも取り組んでくべき課題であると認識している。

今日のご意見には役場など一部でなく、専門的な皆さんにアドバイスをいただきながらやってきたい。委員会などを都度やっていく。ソフトの面のお話もあったが、地域商社と一体となった観光振興、町の事業者の意見を聞く機会も入れて、ソフトの充実も進めていこうと思っている。安芸太田町ならではのことを、探っていこうと思っている。

(2) 道の駅の課題と解決方策(案)について

委員会資料2、P3 道の駅の「道の駅 来夢とごうちの抱えている課題の解決方針」

委員長 篠原先生

今の議論を真摯に受け止めた決意表明のように思った。絵にかいたモチにならないように 3 枚目では具体的なことについてまとめていただいている。イメージだけで、1つ1つ議論すると時間がかかるので、総括的に話をまとめていただき、あとで町が検討をできるように進めて行きたい。

広島経済大学 中村先生

今の道の駅の計画は産直市がメインに見えるが、観光振興基本計画を作る際は、道の駅はまちの情報発信がコンセプトだった。産直市+観光+福祉や図書館や災害などの機能をまとめていくべきである。

行政の分野ごとの対策が出ていると思う。物産館ならば 3 点セットと特徴のあるものを農業委員会や指導員で、観光なら観光でこれを情報発信したいなど。観光振興基本計画では里山というコンセプトをたてた。戦略論的には森林セラピー、トレッキングなど、いろいろある。添乗員さんなどもいる。どういう観光まちづくりか、どこに乗っかるのか検討する必要がある。

町民の人、外から来る人。山田先生の言われた子どもを入れたり、図書館を入れたり、防災、そういうふう整理すればすっきりするのではないか。どういうメニューをやっていくか。どれに貼り付けいくのか整理の仕方次第である。

観光振興基本計画に携わっていたことを考えれば、道の駅に産直市、観光と里山を入れない。今後、何回目かの委員会で話を詰め、戦略を考えていくと思う。

もう一つは町内会や農業委員会、JA などいろいろな組織があるが、これらを連携させる。行政でいうところの縦割りをどうすれば横の連携協力体制を作れるのか。横楯が重要だと思う。

3点セットでいうならば、それなりのハードが必要。ソフトは今回だけで詰められないと思うが、誰ならばどんなメニューがでるのかといった整理が次の会で必要である。

5つの方針があるが、もう少しシンプルに、機能や戦略的な実現策がほしい。

委員長 篠原先生

全体を通して話しておきたいことがあれば、ご意見をいただきたい。

商工会 佐々木氏

5つの整備方針はあるが、建物のイメージがわからない。個人的には、郷土芸能である神楽をテーマにした建物で安芸太田町を PR したい。建物のアピール度が道の駅の魅力になる。安芸高田、北広島も神楽が盛んであり、この 3 か所を神楽ルートとして展開していくことができるのでは。神楽と直接かかわるような郷土料理はないと思うが、田舎らしさを出した料理を提供することも考えられる。

その建物で記念写真を撮って帰るような、ハードで目を引くものでないとだめである。モニュメント、神楽の像、これが安芸太田に行った証拠というようなものが必要。それが魅力的な要素になり、さらにソフト面が加わるといい。

(3) その他

取りまとめ 資料3 スケジュール表

委員長 篠原先生

とりまとめとして、スケジュールについてお話する。令和3年度8月中旬で基本計画までは、スケジュール通り運んできたと思う。先ほど皆さんからご意見があったゾーニング、どのような建物でやっていくかというのを同時進行で進めていただいて、次回以降の会議でお見せいただく。まずはこうした流れであることをご理解いただきたい。

全国の道の駅にも勝ち組、負け組が顕著。今回の計画には全国の素晴らしい道の駅のモデルが詰まっている。しかし、どこの市町村でもあてはまる。他にはないものは何なのか。観光の拠点であり、目的地化するには尖ったものが町の中に必要であるという意見があった。

道の駅の整備においては、今までの観光を見直すべき。顧客価値、今あるものが顧客にとって価値あるものとなっているかを考えるという意見があった。

地域センター型、町の人が寄り添ってもらうためには生活の機能を集約していくのが必要であるという意見もあった。

これらの意見を踏まえて、道の駅のゾーニングや施設を整理してほしい。また、わくわくするような施設整備と同時に、施設を作った後の農業委員会提言のような課題を洗い出していただき、次回に繋げてほしい。

計画という仏ができてきたので、今後は仏に魂を入れる作業に入っていただきたい。それが今からの勝負だと思っている。

6. 閉会あいさつ

橋本町長

今回の提案は若手を中心に色々な意見を出してもらったものを提案した。この中から優先順位をつけていくのか、どう実現するかは、みなさんの意見を考慮して本町の強みとともに提案させていただきたい。我々だけで解決するのではなく、この後町民意見交換会も踏まえながらまとめさせていただきたい。

以上